

Jaspa News

2022

3

March

日整連第172回理事会
令和4年度事業計画決まる



日本自動車整備振興会連合会

で取り外す作業を行った。子供たちは、初めて使う手工具に戸惑いながらも二人で力を合わせて取り付けボルトを取り外し、タイヤ・ホイールを慎重に運んでいた。

タイヤを取り外した後、EV 特有の動力源であるモーター、クルマにとって重要な止まるためのブレーキや曲がるためのステアリングなどの各装置・部品の名称や役目について勉強会を行った。

勉強会の後は、取り外したタイヤ・ホイールとボデーを取り付けて、支局構内にある試乗コースへEV を移動させ、試乗体験を実施した。



楽しい試乗体験

休憩後の後半、親子でマイカー点検では、振興会の職員及び支部の事業者が担当講師となり、マイカーハンドブックをもとに、日常点検の項目について子供にも分かりやすく点検・整備手順を説明した。

イベントの最後に参加した子供たちにアンケートを行い、日頃触ることのないクルマの部品の組立体験が楽しかったと回答が多かったことから、担当講師からは、「このイベントをきっかけにクルマの整備や修理に興味をもち、自動車整備士を将来の職業選択のひとつにしてほしい。」と感想を述べていた。



親子でマイカー点検教室

岡山県整振

岡山県自動車整備振興会、岡山県自動車整備商工組合は、令和3年12月26日（日）に岡山県浅口市にある三ツ山スポーツ公園新多目的広場で開催された第19回全日本高等学校ゼロハンカー大会（24分耐久レース）に後援した。

（主催：全国自動車教育研究会 西日本地区）

本大会は、高校生にものづくりの大切さ、若者の車に対する興味を喚起する目的で開催しており、高校生が自作したフレームに総排気量50cc未満のエンジンを搭載した車両（ゼロハンカー）で、速さ、耐久性等からその完成度を競うもので、全国から25校が出場し、延べ59台の車両が参加した。

競技方法は、一次予選にドラッグレース、二次予選と三次予選で周回レースを実施し、上位10台が決勝に進出となる。

決勝は、所定のコースを24分間走行し、周回数で成績が決定する。ピット・ストップの義務化やレース終了後、上位3台に対して行う車検などは、まるで本物のレースさながらだ。

当日は晴天に恵まれたが、この年一番の寒波の影響もあって強風が吹き荒れていた。選手たちは強風に煽られながらも車両を巧みにコントロールし迫力満点のレースを繰り広げていた。また、コロナ禍の影響により、一般来場者は禁止としたため、ギャラリーは関係者のみであった。

たが、出場した選手たちの応援や熱意によって例年と遜色ない盛り上がりを見せた。

レースの結果は、主管校でもあるおかやま山陽高等学校が2年連続となる優勝を果たし、優勝トロフィーや賞状のほか日整連会長賞として工具が贈られた。

岡山県自動車整備振興会は、岡山県自動車整

備商工組合と共に自動車整備人材確保の一環として、自販連岡山県支部と共同で地元テレビ局（RSK テレビ）の協力の下、大会の特別番組を制作しており、今大会の様子は1月26日に放送された。本番組を通じて、若年層に車の面白さと楽しみ方を発信し、将来の自動車整備士の確保に繋げていく考えだ。



会場となった三ツ山スポーツ公園



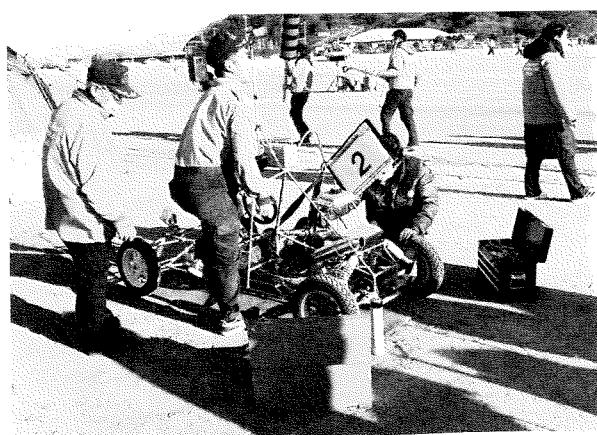
創意工夫したゼロハンカー（予選スタート前）



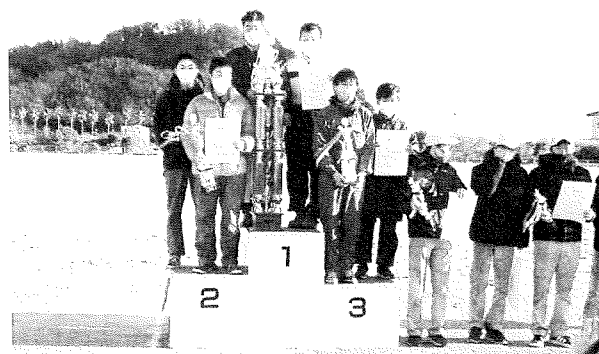
レースの様子



決勝はローリング・スタート方式



レース後の車検



表彰式